

人権作文に学ぶ



生徒写真

スマホやパソコンなど、今や私たちの生活に欠かすことのできないインターネット。今回は、そんなインターネットと人権について、桐明弦輝さん(執筆当時は見崎中学校3年生)の作文から考えてみましょう。

「ネットに書き込まれている悪口」

近年、インターネット上で、特定の人への悪口が増えているように思える。芸能人の方もこの問題に悩まされた事例が多数ある。私の考えは、ある事柄に対して、自分の意見を持つことはいいことだと思うが、その意見を通すために、特定の人を傷つけてはいけないと思う。今、ネットへの悪口が問題になっているということは、たくさんの方がしてはいけないことだと自覚しているからではないだろうか。ではなぜ、ネットへの悪口の書き込みが減らないのだろうか。私なりの意見を三つ述べたいと思う。

一つ目は、ネットでは自分の名前を匿名にできるからだと思う。自分の名前を隠すことで、誹謗中傷をしても、罪悪感が少なくなると思うからだ。実際にSNSのコメント欄を見ても、ほぼ全員が匿名でコメントをしていることから、匿名であることが一つの原因なのではないかと考える。

二つ目は、人は自分と同じ意見を持った人に親近感を持ち、エスカレーターしていくからだと思う。ネット上に

はたくさんさんの意見があり、自分と同じ意見を持つている人を見つけると、自分は間違っていないんだと思ってしまう。客観的に自分を見られなくなるから誹謗中傷してしまうと思う。

三つ目は、誹謗中傷に気付かず、自分はいいいことをしていると、正義感を持つ人がいるからだと思う。今まで正しいことをしてきたと思っていたのに、してはいけないことだと言われても混乱してしまう。そしてまた、知らない間に誹謗中傷をしていると思う。

では誹謗中傷された人の気持ちはどうでしょう。自分の悪口や嫌なことがネット上に永遠に残り、どうしようもない思いをすることになる。また、相談しても対処できず、消えない誹謗中傷と心の傷を一生背負い生きていくことになる。傷つけた人は忘れられると思うが、傷ついた人は忘れないと思う。

このようなことが起こらないために大切なことは、自分の言動一つで人を傷つけ、悲しませるかもしれないという自覚を持つことだと思う。ネット上で誹謗中傷をしている人は、言葉の重みを知らず、責任を感じていない。自分が楽しくなるために他人を傷つけることは、絶対に許されないことだと思う。また、誹謗中傷を許さない社会になつてほしいと思う。そのために人ががんばっている時にまわりにいる人があたたかい言葉をかけて、人と人とのつながりを増やし、声をかけてあげることが必要だと思う。

最後に私の願いは、誰ひとり傷つくことなく、コミュニケーションがとれ、自由に自分の意見を発信できるようになることだ。今までで伝えたかったことは、ネット社会において、自由の限度を超えてしまっているのではないかとことだ。これからもインターネットが発達していくと思うが、誰も傷つくことなく、楽しく、自由な社会になつてほしいと思う。

誰もインターネットで傷つけられることのない社会を願っている、そのために一人一人が心がけておきたい大切なことを示唆してくれた桐明さん。

誹謗中傷(相手への攻撃を目的とした発言)と、批判的意見(建設的な議論を目的とした発言)は違います。いかなる場合でも誹謗中傷は許されません。たとえ匿名であっても、常に自分の発言に対する責任と他者への敬意を忘れないようにしましょう。

第5回人権セミナー八女2023

物価高騰の中、貧困と格差が広がっている日本。何でも「自己責任」で済ませてしまうと、大切なことを見失うのではないだろうか。誰のことも見捨てない、支え合える社会を実現するために、私たちにできることを考えてみませんか。

- 日時 11月16日(木)19時～20時30分
- 会場 上陽公民館
- 講師 森松長生さん
- 演題 いたすけてと言え
- 申込不要、参加無料。



スマイルフェスタ八女2023



SNSでの誹謗中傷により最愛の娘である木村花さんが失った木村響子さんを講師にお招きします。インターネットと人権問題について考えてみませんか。

- 日時 12月9日(土)13時～
- 会場 おりなす八女
- 講師 木村響子さん(NPO法人リメンバーハナ代表・元プロレスラー)
- 演題 〓ヤサシイハナヲサカセマシヨウ